

発掘調査速報 2023

令和5年度 沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展

令和5年7月11日(火)～8月27日(日)



令和4年度の調査成績をいち早く公開



目次

| | |
|-------------------------|----|
| ごあいさつ | 1 |
| 令和4（2022）年度発掘調査 実施箇所位置図 | 2 |
| 松崎馬場跡 | 4 |
| 大工廻八所集落跡 | 8 |
| 宮城平田原遺跡 | 12 |
| 大山岳之佐久原第一遺跡、伊佐上原南遺跡 | 16 |
| 県内出土遺物保存処理 | 18 |
| 沖縄歴史年表 | 20 |

【凡例】

1. 本図録は、沖縄県立埋蔵文化財センター企画展『発掘調査速報2023』（開催期間：令和5年7月11日～8月27日）の展示を補完するものとして編集・作成しました。
2. 許可なく本書の複製及び転載、複写を禁じます。

ごあいさつ

沖縄県内には、貝塚、グスク、集落跡、近世墓、戦争遺跡など約4,800カ所(R3統計+戦争遺跡約1,000件)の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人たちが残したこれら埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄県の歴史・文化の解明や研究に役立てています。

通常、発掘調査が始まってから、土器や石器などの出土遺物を整理し、報告書を刊行するまでには数年の歳月を必要とします。そのため当センターでは、発掘調査で得られた最新の成果を、県民をはじめとする多くの方々に、いち早く見ていただきたいとの思いから、前年度に実施した発掘調査の成果を展示公開する「発掘調査速報」展を毎年開催しています。

今回は、首里城の北側に所在する「松崎馬場跡」や嘉手納弾薬庫地区(知花地区)内の「大工廻八所集落跡」、普天間飛行場内の「大山岳之佐久原第一遺跡・伊佐上原南遺跡」、航空自衛隊・那覇基地内の「宮城平田原遺跡」の発掘調査成果を、出土遺物や写真パネルなどを通して紹介します。さらに、中城御殿跡から出土した金属製品の保存処理の成果についても紹介します。

本展を通して、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、沖縄の歴史と文化、先人たちの暮らしに想いを馳せるとともに、埋蔵文化財の価値やその重要性について理解を深める一助となれば幸いです。

令和5年7月11日

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 前田 直昭

令和4（2022）年度 発掘調査



まつざき ばばあと 松崎馬場跡

所在地 那覇市首里当蔵町
時代 グスク時代～近世・近代



みやぐすくひらたばるいせき 宮城平田原遺跡

所在地 那覇市宮城
時代 近世・近代

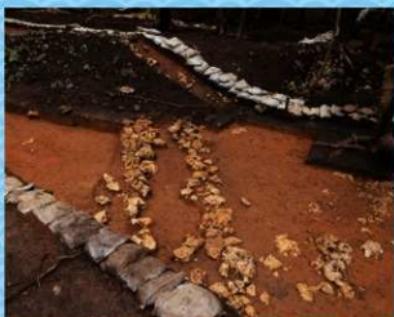


実施箇所位置図



だくじやくやとうくるーしゅうらくあと 大工廻八所集落跡

所在地 沖縄市大工廻（嘉手納弾薬庫地区知花地区）
時代 近世・近代



おおやまたきんさく一ぱるだいいちいせき 大山岳之佐久原第一遺跡、伊佐上原南遺跡

所在地 宜野湾市大山（普天間飛行場内）
時代 縄文時代、グスク時代、近世・近代

まつざきばばあと 松崎馬場跡

DATE

| | | | |
|------|--------------------|-----|-------------|
| 事業名 | 首里城公園発掘調査 | 所在地 | 那覇市首里当蔵町 |
| 調査期間 | 令和4年7月1日～令和4年9月30日 | 時代 | グスク時代～近世・近代 |
| 調査面積 | 33m ² | | |

はじめに

松崎馬場跡を公園として整備するにあたり、遺跡の情報を集める目的で5本のトレンチ（長方形の調査区）を設定して発掘調査を行いました（7ページ調査区平面図参照）。

松崎馬場跡は、首里城の北にある、龍潭と呼ばれる池の横にある遺跡です。龍潭では、中国皇帝からの使者である冊封使を歓迎するために、爬龍船競漕が行われていましたが、それを見下ろせる場所に松崎馬場跡があります。

1700年頃に成立した「首里古地図」を見ると、龍潭のほとりに広がる松林や、松林の横を蛇行しながら南北に走る宿道が描かれています。宿道とは、首里城を起点に各地を結ぶ主要な道路のことです。

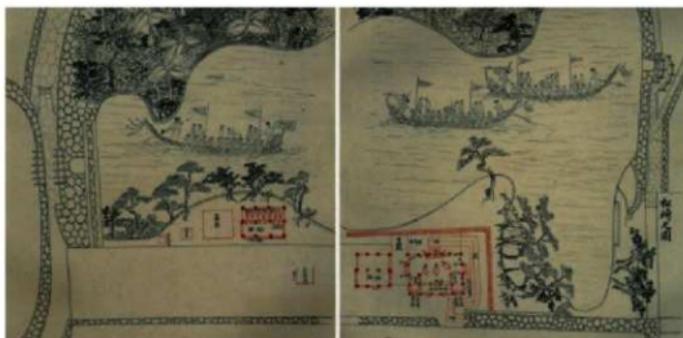
1866年に冊封使が来た時の様子を描いた、「『重陽宴松崎之図』の『首里御殿跡』と『首里城』」を見ると、爬龍船競漕やそれを観覧するための施設などが描かれています。



松崎馬場跡の位置 (Google マップ)



「首里古地図」に描かれた松崎馬場
(沖縄県立図書館所蔵)



『冠船之时御座構之図』の「重陽宴松崎之図」に描かれた松崎馬場
(沖縄県立博物館・美術館所蔵)

発掘調査の成果

グスク時代

● 土地の造成

松崎馬場が成立した詳しい年代は不明ですが、松崎馬場と密接な関係にある龍潭が完成したのは1427年ですので、その頃にある程度の整地が行われた可能性があります。

トレント3・4では、拳大の石灰岩を硬く敷き詰めた層が確認されたことから、土地造成の跡ではないかと考えられました。その直上の層からはグスク土器が数点出土しました。グスク土器が出土した層に含まれていた木炭の年代を分析した結果、16世紀中頃～19世紀前葉という結果が出ました。

近世

● 宿道

トレント1～4では、「首里古地図」などに描かれている宿道にあたる範囲で、石灰岩の砂利を突き固めて造った道の跡が確認されました。最も道幅の残りが良好なトレント2では、幅3.8mを確認ましたが、道の西側(龍潭側)が残っていないため、本来の道幅は不明です。トレント1では、道の東側に緑石を並べている状況が確認できました。

また、道に使われていた石灰岩の砂利を分析した結果、マチナト(牧港)石灰岩と呼ばれる石が使われていることがわかりました。マチナト石灰岩は、黄褐色で比較的加工がしやすいという特徴があります。

● 土地の造成

トレント3・4では、20cm前後の厚さで粘土混じりの土を盛り、さらにその上をサンゴ砂利が混じった土で平らに整えた状況を確認しました。これらの土は宿道の上にも盛られていることから、宿道が通っていた場所も含めて、平らに整地されたことがわかりました。

1801年に、首里王府の最高教育機関である国学が、龍潭の東（現在の県立芸術大学）に設置されました。また、「松崎前から国学までの道に嘉木が植えられ、白砂が敷かれた」ことが『球陽』尚温7年条に書かれています。

国学の西側に造られた石積みは、「国学・首里聖廟 石垣」という名称で沖縄県指定の史跡となっています。また、トレンチ3・4で確認されたサンゴ砂利が、『球陽』に書かれていた白砂であった可能性があります。

● 土地の造成と師範学校

明治19（1886）年、松崎馬場跡と国学跡に沖縄県立師範学校が移転してきました。また、明治30（1897）年には学校の拡張工事が行われました。

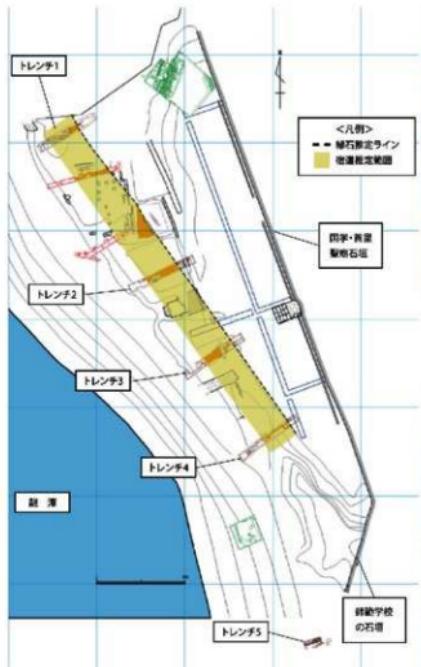
トレンチ1～3では、師範学校の礎石や基壇、溝などが見つかっています。そしてトレンチ3・4では、近世の造成と同じように、粘土混じりの土やサンゴ混じりの土が確認されました。

また、松崎馬場と国学を隔てていた石積みには、一部に積みなおした跡が確認できます。これは、国学跡側の敷地を、一段低い松崎馬場跡側に拡張するために行われた積みなおした痕跡です。この拡張工事によって、松崎馬場跡の南側の大部分が閉じられてしまい、南北への行き来ができなくなったと考えられます。

さらに石積みには、国学跡と松崎馬場跡を行き来するための階段が設置され、現在も現地で見ることができます。



戦前の松崎馬場跡（沖縄県立公文書館所蔵）



だ
く
じ
や
く
や
と
ろ
く
る
ー
し
ゅ
う
ら
く
あ
と

大工廻八所集落跡

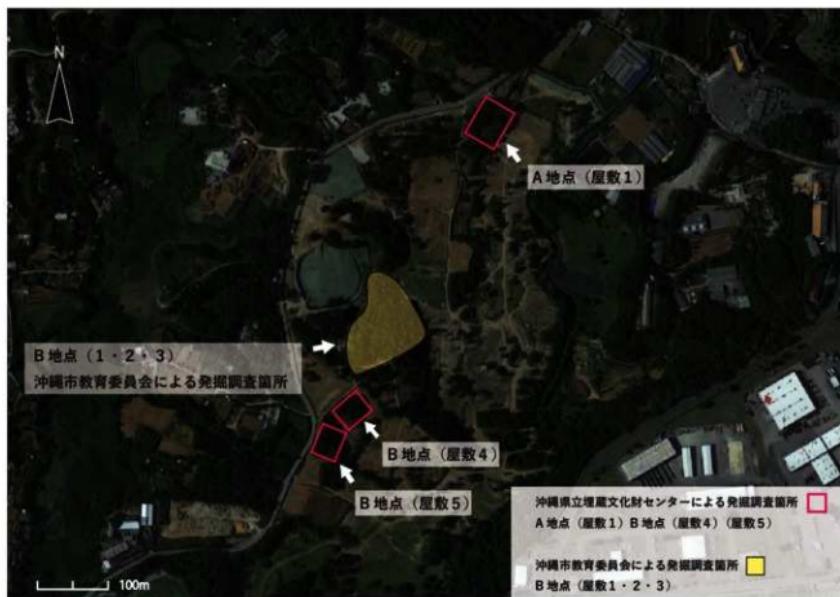
DATE

事業名 嘉手納弾薬庫地区（知花地区）内埋蔵文化財発掘調査
 所在地 沖縄市大工廻（嘉手納弾薬庫地区知花地区） 時代 近世・近代
 調査期間 令和4年6月1日～令和5年3月24日 調査面積 2,400m²

はじめに

本調査は、沖縄市に所在する嘉手納弾薬庫地区（知花地区）内の施設工事に伴い、記録保存を目的として実施された発掘調査です。当センターでは、大工廻八所集落A地点(屋敷1)、B地点(屋敷4・屋敷5)に残る3つの屋敷跡の調査を行いました。

大工廻八所集落跡は、廃藩置県後に首里や那覇などの町方からやってきた人たちにより開拓された屋取集落です。発掘調査により近世～近代の遺構・遺物が出土しました。



調査箇所 (Google マップに一部加筆)

発掘調査の成果

大工廻八所集落跡 A 地点（屋敷1）

屋敷1では、住居跡に伴う柱穴、家畜小屋跡、フール（豚便所）、シリ（肥溜め）、井戸、炭焼窯遺構、クムイ（ため池）などを確認しました。また、イヌ・ウシ・ウマといった動物の骨も多く出土しました。



井戸半截状況



イヌ骨出土状況



炭焼窯半截状況



遺物出土状況

大工廻八所集落跡 B 地点（屋敷4）

屋敷4では、家畜小屋跡、フール、シーリなどを確認しました。フールは、他の屋敷のものとは異なり暗渠を持つ構造でした。暗渠は、フールからシーリへと接続していますが、シーリはフールの真横ではなく、正面に造られるなど特徴的な構造をしています。



B地点（屋敷4）遺構検出状況



フール・シーリ検出状況



フール半截状況



遺物出土状況



礎石検出状況

大工廻八所集落跡 B 地点（屋敷 5）

屋敷 5 では、住居跡に伴う礎石、柱穴、家畜小屋跡、フール、シリなどを確認しました。調査成果から、屋敷 5 では住居跡と考えられる建物の建て替えが、少なくとも 2 回行われていることがわかりました。また、建て替えを行う際に増築していることも確認できました。



B 地点（屋敷 5）遺構検出状況



住居跡



ネコ骨出土状況



家畜小屋跡検出状況



フール・シリ検出状況

みやぎすくひらたばるいせき
宮城平田原遺跡

DATE

事業名 那覇空港自動車道（小禄道路）発掘調査 所在地 那覇市宮城
 調査期間 令和4年8月19日～令和4年11月31日 時代 近世・近代
 調査面積 204m²

はじめに

那覇空港自動車道（小禄道路）の建設によって、やむを得ず破壊されてしまう埋蔵文化財を、写真や図面などの記録として保存するために、平成30（2018）年度より発掘調査を実施しています。

令和4（2022）年度は、那覇市宮城に所在する宮城平田原遺跡の調査を行いました。調査区は、現在航空自衛隊・那覇基地の中にあります。

遺跡が所在する宮城は、戦後の土地制度改革（1951年）が実施されるまで現在の高良と合併しており、高宮城村とされていました。

調査では、戦前まで人々が生活を営んでいた様子をうかがうことのできる遺構や遺物が出土しました。

発掘調査の成果

今回の調査では、近世から近代までの遺構を確認しました。調査区は、北東側から南西側にかけて傾斜している地形となっています。

近世 近世の遺構では、溝状遺構および道跡を確認しました。堆積した土の様子から、溝状遺構は排水または区画に利用されたと考えられます。また調査区中央の溝からは、大量の貝殻が含まれる2つの層を確認しました。この状況から、人々が食料として利用したあとに溝に向かって捨てたことが推測されます。

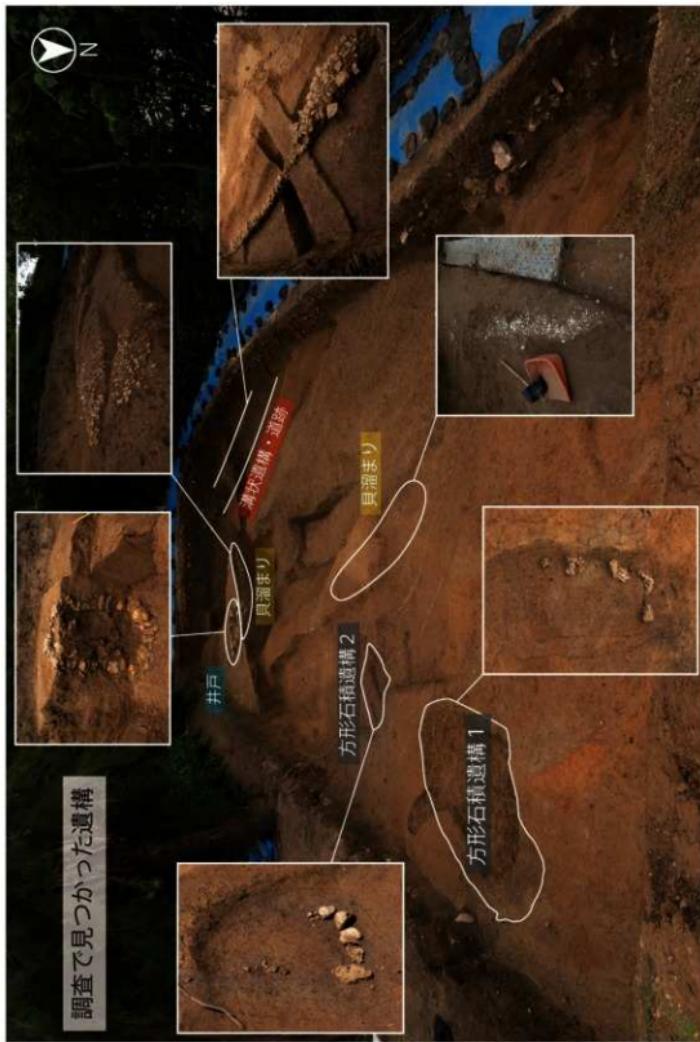
道跡は、調査区の最も低くなっている南西側で確認されました。北西から南西の地形に沿って石を帶状に並べてつくられており、シャコガイや瓦など石以外の材料も利用していました。また、石を並べる前に掘ったとみられる溝からは、陶磁器などの遺物が多く出土しています。

近代 近代の遺構は、方形状に石を積んだ方形石積遺構および井戸を確認しました。方形石積遺構は最も高い位置となる北東側で検出しています。傾斜している地形を利用していることや、遺構の一部で階段状の堆積を確認したことから、クムイ（ため池）またはゴミをためる施設であった可能性があります。

井戸は南東側で確認されました。井戸の底の部分では比較的大きな石材が使用され、上部

にかけて小さくなっていました。井戸の中から牛乳瓶やプラスチック容器などが出土していることから、戦後に埋められた可能性があります。また、壁面などから、傾斜している土地を平らに整地していたことも分かりました。

今後はこれまでの発掘調査の情報を整理し、その成果をまとめた発掘調査報告書の刊行を予定しています。





方形石積遺構 検出作業の様子



井戸半截状況



貝溜まり検出状況



貝溜まりから出土した貝や獣骨



道路検出状況

大正10(1921)年の地図〔左〕の中央部分に「高宮城」という地名が確認できます(黄褐色い枠内)。その隣にあった「馬車軌道」は、現在の県道231号線として、ほぼそのままの形状で利用されています。



1921年〔左〕と2022年時点〔右〕の遺跡周辺地図
(大日本帝国陸軍測量地図および国土地理院地図〔電子国土 Web〕を加工して作成)



発掘調査現場の位置

おおやまとうさんさく一ぱるだいいちいせき 大山岳之佐久原第一遺跡、伊佐上原南遺跡

DATE

事業名 基地内文化財分布調査

所在地 宜野湾市大山（普天間飛行場内）

調査期間 令和4年10月4日～令和5年2月7日 調査面積 300m²

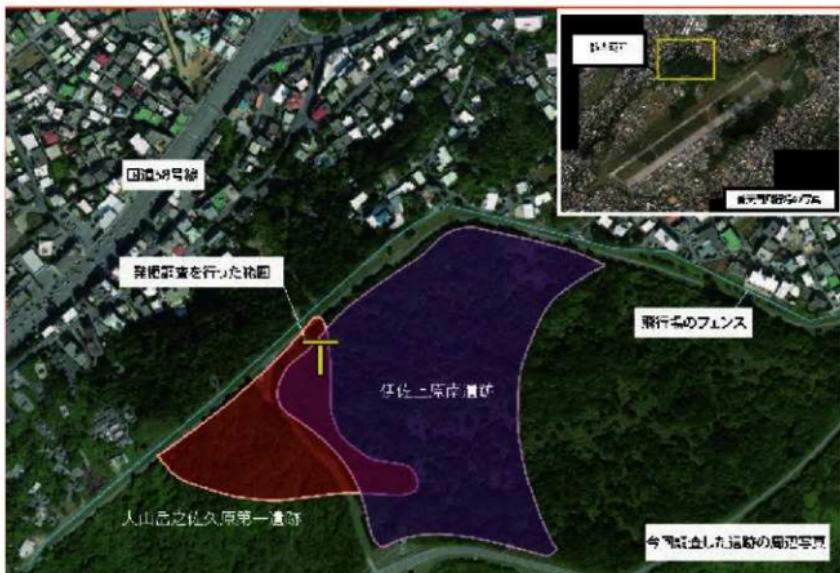
時代 繩文時代、グスク時代、近世・近代

はじめに

基地内文化財分布調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地の中にどのような遺跡があるのかを把握する目的で、平成9年度から実施しています。普天間飛行場内では、現在までに約110か所の遺跡が確認されています。

今回の調査は、大山岳之佐久原第一遺跡（縄文時代・グスク時代）と、伊佐上原南遺跡（近世・近代）について、より正確な範囲と性格を明らかにすることを目的として実施しました。

発掘調査の結果、複数時期の遺構や遺物を確認することができました。



R 4 普天間飛行場の遺跡
調査箇所周辺図

大山岳之佐久原第一遺跡の発掘調査成果

縄文時代

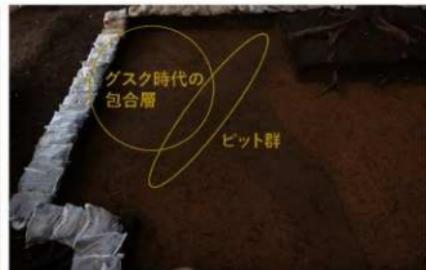
土坑を検出し、土器や石器の材料となるチャートが出土しました。土坑の一つは底面が琉球石灰岩の礫で覆われていました。

グスク時代

堆積層とみられる土の広がりとピット（用途不明の穴）を確認し、遺構が調査区の西側に続くことが判明しました。遺物は出土しませんでしたが、周辺に所在するグスク時代の遺跡の埋土と似ていることから、グスク時代としています。



縄文時代の集石、グスク時代のピット群

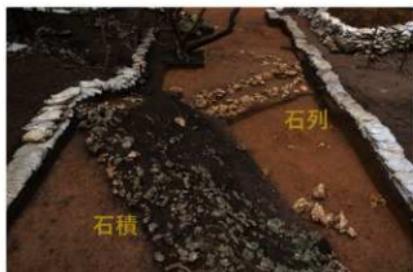


グスク時代の包含層ピット群

伊佐上原南遺跡の発掘調査成果

近世・近代

畑の畝や、畑の区画のために作られた石列や溝、石積みを検出しました。また、本土産陶磁器や沖縄産陶器などが出土しました。



石積・石列



石列

県内出土遺物保存処理

事業の目的

沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行って出土した遺物の中には、金属製品や木製品、石造物などの、時間とともに劣化していくものがあります。この事業は、これらの遺物について長期的な保存や公開等に活用するため、保存処理を行うものです。

金属製品の保存処理

令和4（2022）年度は、中城御殿跡から出土した金属製の飾り金具や灯籠など28点の保存処理を実施しました。ブロンズ病により白く粉をふいて崩れ始めているものや、緑青が全体を覆う膜になっているものなど、いずれも鏽の生成や亀裂等が見られたため、保存処理を行う必要がありました。保存処理には専用の機材や薬品が必要なため、専門業者に委託しました。丁寧なクリーニングと化学的な保存処理を行ったことで耐久性が増し、長期的な保存や積極的な活用ができるようになりました。



①クリーニング作業
(メスを用いた鏽等の除去)



②洗浄作業
(有機溶剤での土砂・油分除去)



③鏽の安定化処理
(BTA 含浸)



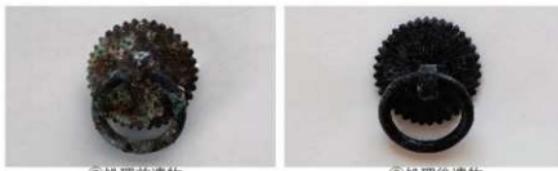
④樹脂含浸
(アクリル系樹脂)



⑤接合作業
(エポキシ系接着剤)



⑥樹脂塗布
(アクリル系樹脂 + つや消し剤)



⑦処理前遺物

⑧処理後遺物

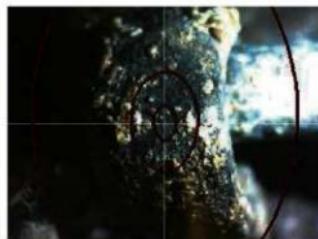
金属製品の蛍光 X 線分析

金属製品の保存処理前に行う調査として、製品の素材を調べる目的で蛍光 X 線分析を実施しました。蛍光 X 線分析は文化財の材質調査で広く用いられる手法の一つで、試料を破壊せずに分析できるメリットがあります。一方で、表面の状態のみを分析する手法のため、内部までは調べることができませんが、遺物保存の観点からみると有効な手法といえます。

今回の分析は、すでに材質の判明している 2 点を除いた 26 点で実施しました。その結果、真鍮（黄銅）^{しんとう} 製が 22 点、銅製が 2 点、青銅製が 2 点という結果が得られました。遺跡から出土する金属製品は青銅と見られることが多いのですが、青銅と真鍮（黄銅）は錆が進行した状態だと見た目で判別することが難しく、このような分析を行うことで初めて材質を推定することができ、保存処理の手法に反映されます。



蛍光 X 線分析試料



蛍光 X 線分析試料拡大

RP システムによる簡易保存処理

調査によって得られた金属製品は、錆の進行を防ぐために、空気や湿気を通さない特殊な袋に RP 剤（乾燥機能のある脱酸素剤）密封し、無酸素状態で保管しています。

（三菱ガス化学：RP システム）

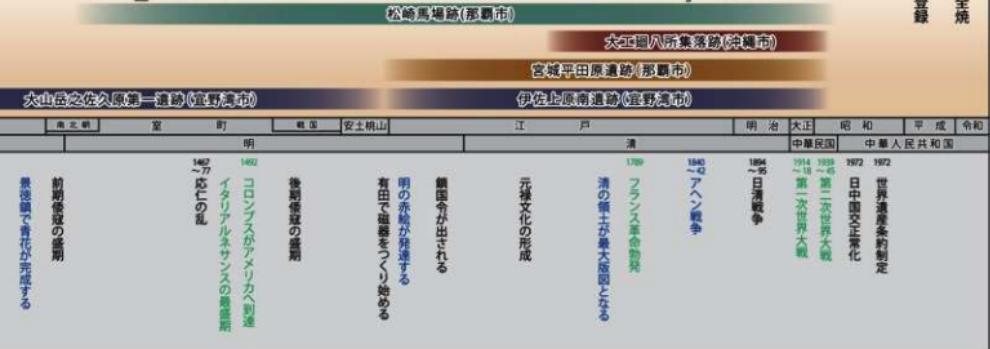
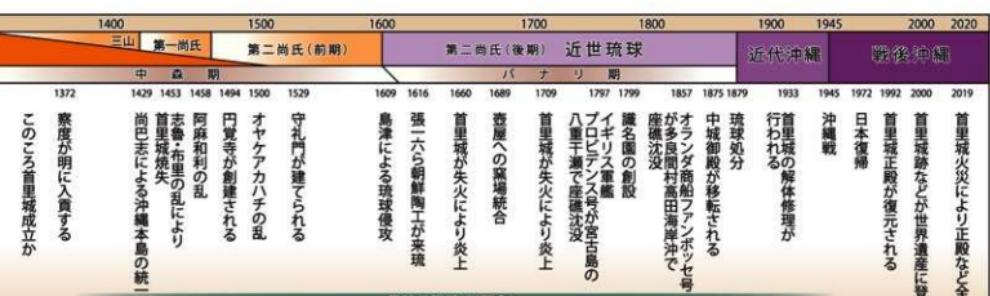
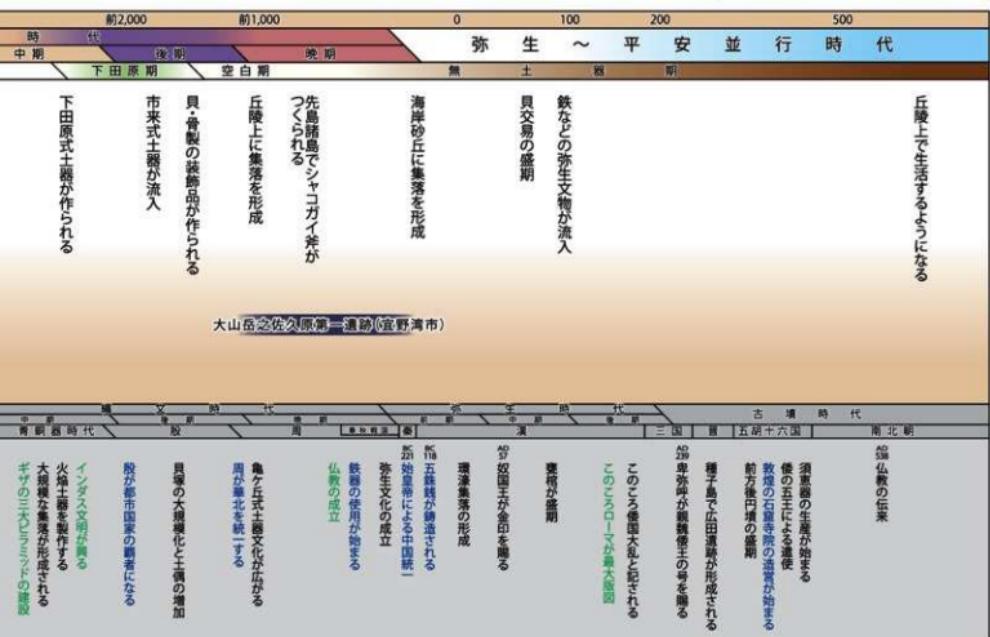


封入作業（ガスバリア袋へ遺物と RP 剤を投入）

沖縄歴史年表

| 西暦 | 前200万～1万4,000 | 前1万4,000～5,000 | 前5,000 | 前4,000 | 前3,000 |
|-------------|---|--|-----------------------|---|---|
| 沖縄本島 | 旧石器時代 | | 早 期 | 中 期 | 晚 期 |
| 南北八重山 | | | | | |
| 沖縄の様相 | 港川人が現れる 山下洞人が現れる | 自保人が現れる | 局部磨製石斧が使用 | 曾畠式土器が流入 | 土器の個性化が始まる |
| 今日本中国の時代となる | | | | | |
| 日本 | 旧石器時代 | 新石器時代 | 新石器時代 | 新石器時代 | 新石器時代 |
| 中国 | | | | | |
| 日本・中国の様相 | 北京原人が現れる 新人が東南アジアに到着する アフリカ大陸人(オモ・ウニエンス)が現れる(ヒト科) | 局部磨製石斧を使用する 弓矢の使用が始まる 土器製作が活性化 細石刃を使用する | 縄文海道が始まる 尖底土器を製作する | 海道が最大となる 平底土器製作する 仰韶(彩陶)文化が形成される 黄河文明が興る | メソポタミアに都市国家が興る 地中海が形成される メソポタミア文化が形成される |

| 西暦 | 600 | 700 | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 | 1300 |
|-------------|--|------------------------------|--|--------------------------------|--|-----------------------------|--------------|--------------|
| 沖縄本島 | 弥生～平安並行時代 | | | | | グスク時代 | | |
| 南北八重山 | | | | | | | | |
| 沖縄の様相 | 縄文から阿尻祭波島に漁着 信覚・球美の人らが帰朝する このころ開元通宝が流入 | 無土器期 | 土器が無文化するようになる | 舜天即位と伝わる 陶磁器・石編・カムイヤナの流通 | 舜天即位と伝わる 陶磁器・石編・カムイヤナの流通 | 舜天即位と伝わる 陶磁器・石編・カムイヤナの流通 | 各地に大型クヌクが現れる | 各地に大型クヌクが現れる |
| 今日本中国の時代となる | | | | | | | | |
| 日本 | 古墳 | 飛鳥 | 奈良 | 平安時代 | 鎌倉 | 室町 | 江戸 | 元 |
| 中国 | 隋 | 唐 | 唐 | 五代十国 | 宋 | 金 | 元 | 1274・朝 |
| 日本・中国の様相 | 隋の領土が最大盛期となる 連淮陽の派遣始まる 法華の建立 | 710 平城京(遷都) 天平文化が形成される | 794 平安京(遷都) このころ龍泉窯が開かれる 国風文化が形成される このころ長崎貿易が開かれれる 遣唐使の停止 | 894 慈恩氏の全盛 このころ羅針盤・火薬の発明 | 1127 ～靖康の変 源平の対立 開磁器の輸出が盛んになる | 1274・朝 | モンゴルの襲来 | |





『文化講座のおしゃらせ』

第94回文化講座 「発掘調査速報 2023」

日時

令和5年8月6日(日)

14:00 ~ 16:00 / 受付 13:30

会場

当センター研修室

講師

当センター専門員

受講料

無料

休所日

月曜日（国民の休日・慰霊の日にあたる場合は翌平日に振替）

国民の休日（こどもの日・文化の日を除く）

年末年始（12/28-1/4）

慰霊の日（6/23）※その他臨時休所あり

開所時間

9:00-17:00（入所は 16:30まで）

住所

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

電話番号

☎ 098-835-8752/8751

WEB サイト

○ 沖縄県立埋蔵文化財センター